

# 角川さん(県立大)体温計入賞

## デザインパテントコンテスト 検知部平ら、脇にフィット



自分がデザインした体温計の模型を手にする  
角川さん

全国の高校・大学生から暮らしをより良くするデザインを募った「2016年度デザインパテントコンテスト」(文部科学省など主催)で、県立大デザイン学部3年角川夕依さん(23)が考案した体温計が入賞した。体温計は通常、体温を検知する先端部が細

くなっているが、より脇にフィットして安定する形状にしようと、平べったく丸みを持たせたのが特徴。角川さんは、先端部が細いと脇でぐらついて不便だと以前から感じていたという。他にも電池交換の際にドライバーがなくても硬貨でふたを開閉できるようにし、使いやすさにこだわった。専用のコンピューターソフトで体温計の図面を作り、3Dプリンターを使って模型を完成させた。入賞者は意匠権取得の支援が受けられる。将来の夢はさまざまな製品をデザインする「プロダクトデザイナー」という角川さん。「考案した体温計がいつか商品となり、たくさんの人に使ってもらえたら」と話

す。コンテストは昨年7月9月に作品を募集し、全国から318件が寄せられた。大学教授らでつくる選考委員会が独創性や実用性などを審査し、31件が入賞した。角川さんは、在籍するデザイン学部デザイン工学科の授業の一環で応募した。

(宮原彩)